

# WEST 政策発表会（大阪府政策提言ツアー） 学生レポート

訪問日時：2020年2月19日 午後2時半から5時半

参加者：WEST 大会優秀賞受賞チームほか(大阪大学・中央大学・神戸大学)

WEST で優秀賞に選ばれたチームが、実際の政策を策定する担当者の前で政策を提案する場として、大阪府の協力の下で、大阪府への政策提言ツアーを実施した。



## WEST 論文研究政策発表会（意見交換会）

### 次第

急な場所変更を行ったため、間に合わない学生を考慮し、1時間時間を繰り下げて16時から行った。

日時：令和2年2月19日（水）  
場所：OSIPP 棟6F 会議室

**15:00～15:05 開会**

**15:05～17:20 受賞論文に関する意見交換会**（※プレゼンテーション15分、意見交換10分）

**(15:05～15:30)**

・【優秀賞】大阪大学・赤井研究室・岡班

「公営住宅の効率的な配分～より多くの人が「住む」に困らない社会を目指して～」

**(15:30～15:55)**

・【優秀賞】中央大学・中村研究室・加藤班 ※出席する方向で調整中

「子供の貧困に関する実証研究～教育からみた相対的貧困の解決～」

**(15:55～16:20)**

・【優秀賞】大阪大学・赤井研究室・渡邊班

「廃棄物処理施設の効率的な運営に向けて – 民間委託と広域化に関する一考 –」

<10分休憩>

**(16:30～16:55)**

・【優秀賞】神戸大学・勇上研究室・山本班

「中学校教育のこれから～教師が学び続けられる社会を目指して～」

**(16:55～17:20)**

・【最優秀賞】大阪大学・赤井研究室・小桜班

「市町村における男女共同参画社会の実現 ～女性地方公務員の活躍を目指して～」

**17:20～17:30 閉会**

## 政策提言ツアー企画について

大阪府への政策提言ツアーは、政策企画部企画室の協力を得て実施するもので、今回で6度目となる。本年度は、優秀賞を得たチーム全5チームが参加した。例年通り、大阪府庁で行う予定であったが、新型コロナウイルスへの対応に向けた大阪府知事による自粛要請により、規模を縮小し、大阪大学国際公共政策研究科主催で行うことになった。政策企画部のスタッフに大阪大学国際公共政策研究科にお越しいただき、各チームは、大阪府の担当部局の政策立案担当者の前で、政策提言を行った。

時間をかけて、課題、解決のための政策について、説得性を高めてきただけあって、政策立案担当者とも議論が出来るレベルになっていたと思われる。社会では、データがなくイメージで議論されていることを受けて、大学では、エビデンスベースの議論、つまり、データに基づいて議論する訓練をしているが、一方で、「データから結果が得られたので正しい」という気持ちで主張すると、実際の現場や住民の立場、行政・政治の視点も重要視して判断しなければならない担当者には伝わりにくいという側面も見えた。このように、学生にとっては、今後社会において社会問題を議論する準備としての良い経験になったと思われる。実施後のアンケートでは、参加学生ほぼ全員が満足との回答をした。前回からの経験で、分析時に悩んだ点に関して、学生から政策担当者に質問する時間や、政策担当者の政策の悩みを聞く時間を設けること工夫した。今後もこの視点で内容を充実していきたいと考えている。以下に、学生の感想をまとめる。

文責 赤井伸郎

\*\*\*\*\*

<大阪府からのコメント>

政策を創っていくに際しては、エビデンスはもちろん、現場や府民の立場における視点も重視していただければ、より意義のある政策立案ができると思います。私たちにとっても、政策提言ツアーは、政策立案にあたっての新たな視点に気付かされる貴重な機会になっています。引き続き、こうしたお互いにとっての触発の場を増やしていければと思っています。

## 今回の大阪府への政策提言ツアーでの発表・議論から感じたこと、学んだこと

1. 大阪府庁で発表する最後の機会だと思っていたので、阪大での開催となったのは少し残念でしたが、大阪府の方や中央大学の方にもお越しいただくことができ良かったと思います。廃棄物処理の発表では、市民の視点の重要性や、コストと安全・安心のどちらを優先するか、住民にどう説明するかを指摘され、考えさせられました。「論文発表ではなく提言の場」と吉田さんが仰っていたように、政策の実現可能性にフォーカスして、行政の方々からコメントを頂くことができ、政策を運用するための視点や考え方を学ぶことができる貴重な機会となりました。交流会でも、普段は交流できない大阪府や中央大学の方といろいろなお話ができ楽しかったです。
2. 今回は大阪大学まで足を運んでいただき、本当にありがとうございました。毎年、私たち学生が机上の理論だけでは気づくことが出来ない、毎日実務にあたられている方だからこそその新たな観点に気づかせていただいています。今回は特に、政策提言「広域型メンター制度」への1人のメンターに対して応募が集中した場合の対処は執筆中に出てこなかった問題点でした。
3. コロナウイルスの関係で開催が危ぶまれましたが、大阪大学まで皆さんに出向いていただき会が行えたのが嬉しかったです。また私たちの班は国の制度に対する提言であったため、大阪府の方たちにどこまで響くのかプレゼン前は不安でしたが、当日は皆さまに真摯に話を聞いていただき、丁寧なアドバイスやご感想をいただけたことが、大変ありがたかったです。中央大学など他大学のプレゼンをもう一度ゆっくり聞きなおすことができた点も、有意義でした。
4. まずは、コロナウイルスの影響により例年に比べ小規模での開催となったが、わざわざ大学までお越しいただき、貴重な機会をいただけたことに厚く感謝いたします。実際に政策を実施する際に重要な観点となる、政策の効果測定の在り方と制度利用者へのインセンティブ付与についての現場レベルでのご指摘をいただいたことで、より知見が深められました。また、実際に女性公務員の一人として現在活躍なさっている方のお考えなどもお伺い出来たことが、今後私も自身のキャリアについて考える上での一助となりました。エビデンスベースでの思考がより求められるようになった昨今においては、こうした論文執筆や発表の

経験は一生涯のものであり得られた知見を自分の知識・スキルとして使いこなせるよう、今後も励んで参ります。

5. 自治体向けに提言を多く提案したこともあり、大阪府の方から実務を踏まえたコメントを頂き、今後の制度立案において参考になりました。我々が頭で考えていたこととは違う考え方であったのが刺激になりました。今回は残念ながら大阪府庁での開催はできませんでしたが、それでもわざわざ阪大まで足を運んでくださった大阪府の職員の方々には感謝しかありません。本当にありがとうございました。
6. 久しぶりの研究発表であり、かつ、普段よりも少人数での発表で緊張しましたが、大阪府職員の方々や他大学の学生が温かく聞いてくださったおかげで、しっかり発表することができ、非常に有意義な濃い時間となりました。特に、大阪府職員の方々から実務家の視点でコメントをいただいたことは、政策提言論文の執筆に真剣に取り組んだ身として非常に嬉しい機会となりました。来年度以降も、ぜひ宜しくお願い致します。ありがとうございました。
7. WEST としての最後の活動として大阪府に対する提言ツアーがあり、その目的としては学術的な論文の政策提言に着目し実現性や効果の側面から再考察することが挙げられます。今回、コロナウイルスの影響で大阪府視察は叶いませんでしたが、何とか赤井先生を始め様々な方々のご協力のおかげで、大阪大学での開催を果たすことができました。感謝しております。また、参加者としても大阪府企画室の方から興味深い意見をいただくことで、論文について改めて論文の抜け穴に気づき、来年度に活かしたいと思えました。今後も多角的な視点を忘れず、貪欲に論文執筆や退会運営に関わっていきたいと思います。
8. 実際に政策に第一線で関わる人々にプレゼンすることで、自分たちの政策に足りない視点を気づかせてもらいました。具体的には、政策を考えるうえでの市民の人々からの反応や彼らの参加体制について考えの甘さを指摘され、政策の受益者である市民の目線を持つことの重要性を実感いたしました。このように、自分たちの政策をプレゼンし、良い悪いの評価をしてもらうことで、我々の研究成果が机上の空論ではなく実際の政策として役立つ可能性を感じることができました。



9. 初めての政策提言ツアーの参加だったのですが、大会のときにご講評いただいたのはまた少し違った、大阪府の方々から現場に即した実践的な視点でアドバイスしていただけたのがとても貴重な体験だったと感じました。その後の懇親会でもさらに大阪府の行政について実際に行っている方からお話を聞くことができたのは、自分の視野を広げるいい機会でした。また、大会のときにはあまり交流できなかった他大学の方ともお話できたのがよかったです。
10. 大阪府職員の方々意外にも優しく、親身になったコメントをくださり、とても感激しました。実際に政策を作り執行している立場だからこそ、行政目線、市民目線での意見をいただきました。特に市民にどう響くかという観点は、自分になかったので、これから気をつけたい。市民にとって、税金を多く払っても良いと思えるような政策でなければならない。ただ論文として筋が通っているだけではなくて、現場で通用するものでなければ意味がない。
11. 大阪府提言ツアーでは、大阪府の方々の意見を聞けると共に、久しぶりに他大学の人たちの発表を聞くことができ新鮮でした。また、現場で政策に関わるひとの声を聞くことができ、実際に政策を考えるにあたり自分たちの分析に基づいていることも重要だけど、現場の声も上手く融合させたものを考えていければと感じました。その後の交流会でもフランクにお話することができ、楽しかったです。
12. 政策提言ツアーでは WEST 論文研究発表会に参加するだけでは得られなかった、生の政策提言の空気感に触れられたと思います。今回は審査の場ではなく、実際の政策提言という前提で発表が行われた為か、成功事例の有無やその効果を確認するようなコメントが大半を占めていました。どのような情報が実際の政策提言において必要なのか身をもって理解できたと思います。政策提言ツアーに参加して初めてわかる多くの学びがあり、非常に有意義な時間であったと思います。
13. 私自身、論文の執筆は初めてでわからないことが多かったのですが、今回の政策提言ツアーで大阪府庁や他大学の方々からの質問は今まで深く考えてなかったところもあり、新しい視点が得られ勉強になりました。また、他大学の発表はどれも私達の研究と比べて完成度が高く、論理の流れがスムーズでわかりやすいと思いました。総じて、とても良い刺激になったので、参加してよかったです。今回

の政策提言ツアーでの経験も踏まえて、今後は卒論執筆に取り組みたいと思います。

14. 他大の方から非常に刺激を受けました。私自身、「学生レベルを超えた」と感じる論文を執筆しましたが、他大の方の発表を聞いて「井の中の蛙」だと実感しました。この経験を活かして、今後は慢心することなく日々をすごしていきたいです。このような会を開いていただいた「WEST 実行委員の方」、「大阪府庁の方」、本当にありがとうございました。
15. 政策提言ツアーに参加して、プレゼンの難しさを感じました。15分間でプロの方々を納得させられるように内容を取捨選択して伝えつつもりでしたが、聞き手への配慮が足りていなかったと痛感しました。大阪府庁の方々には政策の効果を重要視しており、もう少し効果を具体的に伝えられたらよかったです。実際に政策を打ち出す立場の方に向けてプレゼンをすることでこのような気づきを得られ、非常に有意義な時間でした。
16. ゼミ活動を通して、班のみんなで協力して先行研究を読んだり分析を行ったりした結果を元に編み出した政策を、実際に大阪府の役員の方に提言するのは緊張したけれどもそれ以上に非常にやりがいを感じました。貴重な経験をさせていただき感謝の気持ちでいっぱいです。コロナの関係で開催が危ぶまれたにもかかわらず、会場準備等迅速な対応によって中止を阻止してくださった赤井先生をはじめ関係者の方々本当にありがとうございました。
17. 今回のツアーの中で一番強く感じたことは、自身の学びを、課題解決の手段としてアウトプットすることの重要性です。今まで、私の大学での学習は、学ぶことそのものが最終目標となっており、それを社会にどう活かしていくかを考えることができておりませんでした。しかし、今回は政策提言までを行い、それを実現性や施行した際の便益といった実際的な面で評価していただきました。そのため、提言した政策とそれによる便益を論理的に結びつける根拠づけの手段として、自身の研究を進めることができました。大学卒業後に何かを学ぶ際も、学び自体を目標とするだけでなく、それを手段として活用することを意識していきたいです。